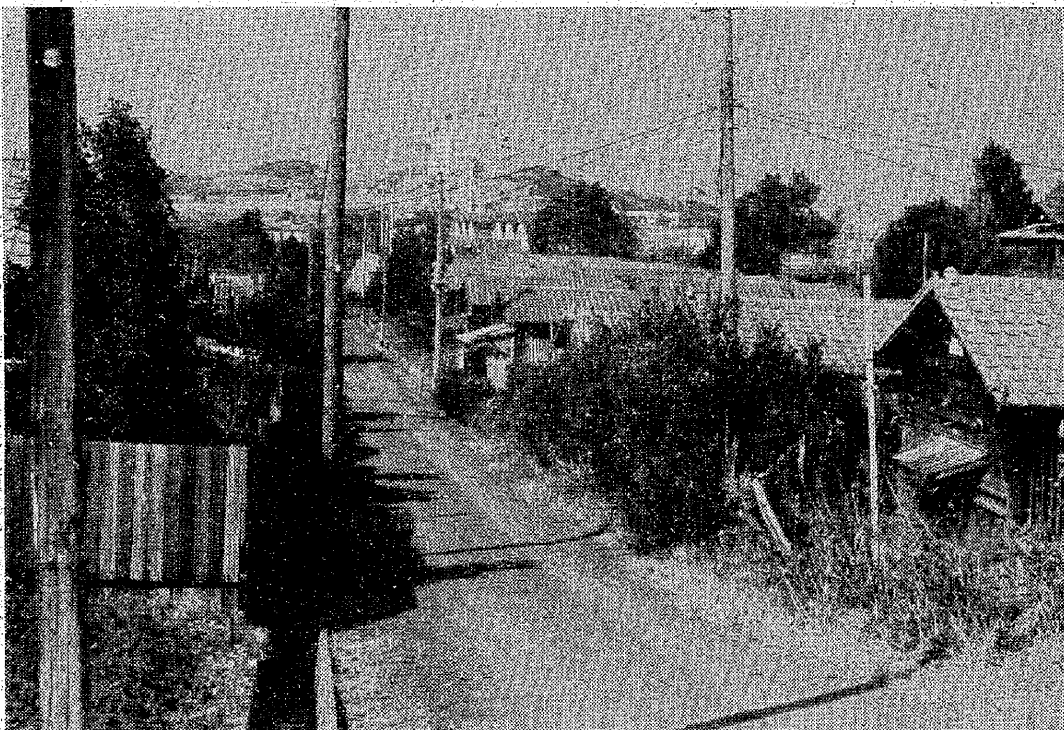
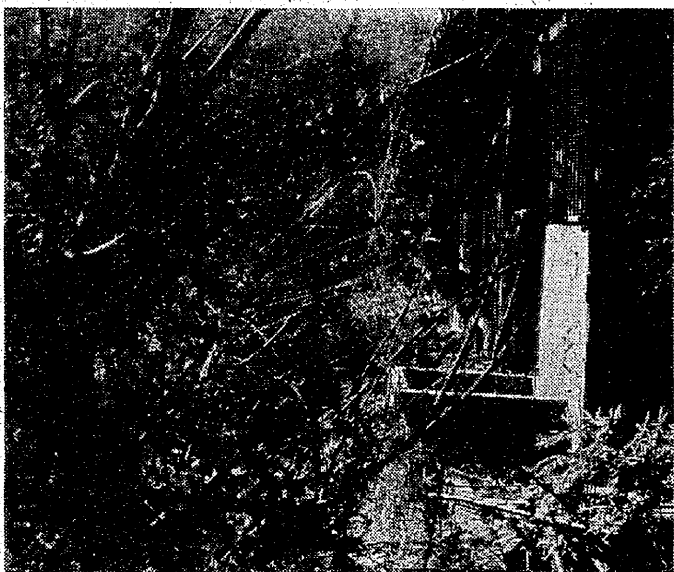


三井ベッタリの

荒尾市政



はるか向うに、遊園地の三井グリーンランドをのぞむ。広大な土地をひとりじめにしなが、ただけく人びとのフトコロからまで搾り取ることしか考えぬ三井。これも、戦時中にタダ同然な値でまきあげたのだという。



炭鉱住宅の低い屋根よりも高く伸びた雑草。まるでオバケ屋敷。三井は、こんな所から次々に開放せよ。ここには市政などはない。

革新の力で福祉を

三池退任 荒尾市長選に決起

荒尾市長選挙は、門田作革新統一候補の大奮闘のなかでたたかわれているが、このとき三池退任者の会(古賀登会長)も、革新候補者の生活の安定を「目指そう」というもの。

近づく福利・厚生要求闘争

要求は四十項内外か

反合理化の怒りぶつつけよう

三池労組は春闘を前に、職場・地域から出された要求にもつき、近き労働、福利厚生向上を目指し闘いに立ちあがろうとしている。今年には特に反合理化闘争の性格を濃くして闘った。それだけに、この闘いは例年になく怒りの闘いとなる。

三池組合が集約中の労働、福利、賃金体系の改善

厚生に関する要求は、「切羽(採)」に、三池港務所は三池労組(炭現場)温度は全坑内二十八度以下の強い反対を押し切って、「月給下げせよ」「定着出勤奨励金は、生活を補助金として額上げを行なう。全員の支給せよ」など、四十、系のひどい改悪だった。項目内外におよんでいる。

「いったい何が、おびただしいこのような要求を生みだしてきたのか。それは述べざるまでもなく、年ごと、巧妙な手段で強められていく資本の合理化以外はない。

合理化の手段

課や係、職種の統廃合
本所が、電気課と水道課を統合して施設などを一つにしたことは以前のことである。

いま四山鉱では坑内の電気と機械の一部が、くろこみでそれぞれも、いったん坑底に下がればいっしょになって同じ作業をする形が採用されはじめた。「やがて全面化するための、モデル作業だ」とは現場の声。高浦鉱では職種の統廃合が逐次進行中。いわゆる「何でも屋」の拡大。

新主導の市政を表現し、年金生活者の生活の安定を「目指そう」というもの。同退任者の会には、保革逆転を目指す大切な選挙で「低福祉負担、増税・インフレ」を招く自民党政権を打ち破り、革

その教科書に書かれている。ゼロ・デフレックスと呼び、職制を通じ労働者をグループに結束し、その責任のもとに、その自発心を開発しながらやっていく。そのためにも、労働者個人の責

じん肺法改悪が心配

じん肺患者の会が 阻止目指して立つ

三池じん肺患者の会(向井芳夫会長)は全国じん肺患者同盟(佐藤金吉)と一体となり、今じん肺法の改悪阻止・改正を目指し運動に立ちあがっている。

この運動を広げるために、全国の会は、ひろく協力・支援を呼びかけながら署名を集める活動に乗り出した。集まった署名を、ええ、近く政府に対してじん肺法の改正を求め陳情を行う計画。

三池労組では右の署名活動に協力しているが、対政府陳情の要旨はほぼ次の通りである。

昭和三十五年三月三十一日、じん肺法が制定されて以来十七年間にその予防、健康管理が施行されてきたが、今「じん肺の健康管理」の在り方に関する中間報告案」が提案され、私達は現行よりも後退するのではないかと心配が先に立っております。

五十年十一月一日施行の障害等級基準の設定に際しては、心配のあまり岡山労災病院にて、尊い生命を自ら断った患者もありました。じん肺法が改悪にならないよう、温情あるご高配を賜りますようお願いを申し上げます。

資本のねらい

ほかにまだまだ合理化の手段はいらぬものが、会社はこのような手段で、いっせいで三池新労組員をその組織から資本のもとにしつくり、思う存分にき使し、合理化を進め、同時にあくまでも三池労組との分断支配をいつけていく。その目的は徹底的に搾り出すことにある。

総評、春闘へ動き出す

総評は、一月七日日本女子会館で各単産委員長会議を開催。七七国民春闘の統一要求をきめた。要求は、次の十二項目である。
(1)物価安定に関する要求
(2)五十二年度税制の改正
(3)最低賃金に関する要求
(4)雇用・失業保障の労働四団体統一要求
(5)労働時間短縮に関する要求
(6)労働基本権に関する要求
(7)労働災害防止と完全補償
(8)社会保険制度の改善
(9)地方財政に関する要求
(10)住宅に関する要求
(11)公害削減に関する要求

